

ポーラ・オルビスグループ「健康経営宣言」を制定 ～多様な個性・感受性を育み、発揮するための施策を推進～

ポーラ・オルビスグループでは、従業員が健康であることが、新しい価値を生み出すための源泉であるとともに、当社グループの持続的成長を支える基盤であると考え、2017年にポーラ・オルビスグループ健康経営宣言を策定しました。

当社では、2017年2月にグループ理念を刷新し「感受性のスイッチを全開にする」をミッションとしました。“健康”がグループ理念で重要視している多様な個性・感受性を育み、発揮するための源泉であると認識し、これまで以上に従業員の健康管理と増進を積極的に推進します。

「ポーラ・オルビスグループ健康経営宣言」

ポーラ・オルビスグループにおける「健康」は創業以来、お客さまに寄り添い、お客さまを想い、商品・サービスを提供してきた歴史を紡ぎ未来に向けて、感受性のスイッチを全開にし、常に新しい価値を生み出すための源泉です。

従業員一人ひとりが健康であってこそ他者を想いやり、また自分らしく、彩りに満ちた人生を送ることができると考えています。

ポーラ・オルビスグループでは、グループ理念を体現していくために従業員の心身の健康を経営の重要課題として位置づけ従業員とその家族とともに、健康づくりに取り組んでまいります。

【健康経営の推進について】

1. 推進体制

株式会社ポーラ・オルビスホールディングス人事担当役員を健康経営推進の責任者として、グループ横断での健康経営の企画実行、推進、評価、検証に取り組みます。

2. 重点的な取り組み

(1) ポーラ・オルビスグループ産業保健体制の強化

新たにグループ健康管理センターを設置し、従業員の健康診断情報を一元管理するとともに、定期的な面談や保健指導等を通じて、健康診断受診結果に基づくフォローアップ（生活習慣病の重症化防止、低減）をこれまで以上に徹底します。

(2) こころの健康（メンタルヘルス）対策

産業保健スタッフの拡充や外部のカウンセリング相談窓口の設置等により、こころの健康に対するサポートを強化します。また、継続的な職場改善、教育研修や働き方改革の推進を通じて、業務上のストレスを予防、低減していくことで、メンタル不調者発生の未然防止に努めます。

(3) からだの健康対策

生活習慣に起因する疾病リスクの更なる低減を図るため、定期的な健康教育、情報の発信のほか、社員食堂における健康メニューの提供、運動機会の確保、ICTを活用した健康管理施策の展開など、グループ横断的な健康増進活動を推進します。若年世代から健康的な生活習慣の意識向上と改善行動を促進し、社内の健康文化醸成に努めています。

詳細については、<http://www.po-holdings.co.jp/csr/social/health/index.html> をご参照ください。